

シリーズ 下水道探訪

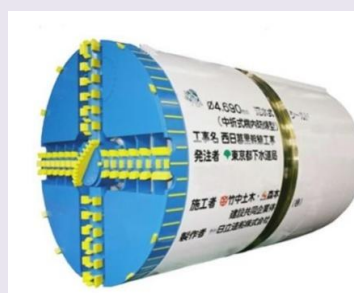
東京の足元を流れる下水道は、様々な顔を持っています。
 ここでは、下水道に関するいろいろな施設等をシリーズでご案内していきます。
 第2回目は、大きな下水道管である下水道幹線の整備を行っている西日暮里幹線工事の現場をご紹介します。
 この工事は、老朽化した他の下水道幹線からの切替と雨水対策を目的としており、モグラが掘り進むように
 シールドマシンが道路下の地中を掘り進みながら下水道管を作って行く「シールド工法」が採用されています。



▼ 地上からシールド発進立坑を見たところで、深さは35mあります。



▼シールドマシンです。



▼下水道管の内径は4.0メートルもあります。人が楽々入れますね（*^。^*）



シールドマシンは地上から遠隔操作で動かしています。



▼下水道管となる部材(セグメント)を取り付けています。



▲セグメントはバウムクーヘンを切ったような形です。

▼今回の工事で作る下水道管の長さは3,527mもあります。



▲材料の運搬車はバッテリーで動いています。

▲ [一覧へ戻る](#)